

尿沈渣保存法の検討並びにデジタル教材の作成 : 効果的な尿沈渣実習のために

著者	今西 麻樹子, 新谷 路子
雑誌名	神戸常盤大学紀要. 別冊
号	16
ページ	21-21
発行年	2023-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1492/00001184/

2-P-17

尿沈渣保存法の検討並びにデジタル教材の作成：効果的な尿沈渣実習のために

今西 麻樹子¹⁾新谷 路子¹⁾

尿定性試験紙検査は、非侵襲性の検査であり、診療の初期段階で、腎・尿路系病変の有無を把握するスクリーニング検査として広く実施されている。尿の形態学的検査である尿沈渣検査は、腎・尿路系疾患をより詳細に分析する方法であり、検査者には熟練した技術と知識が必要とされ、そのためにはトレーニング用標本がその都度必要となる。尿沈渣は、尿中に赤血球、白血球、上皮細胞などが染色液とともに生の状態で含まれているため、数分から数時間程度で細胞形態や染色性が変化し保存は困難である。尿沈渣標本を長期保存し繰り返し観察することができれば、基本的な出現成分だけではなく、希少成分を含む標本を随時教材として使用することが可能となり教育効果の向上が期待できる。本研究では、健常者の尿沈渣に出現する有形成分（赤血球、白血球、上皮細胞、塩類・結晶類等）を長く保存させるために、固定液・染色液の種類や濃度、封入剤などについて検討した。本発表では、検討した固定液・染色液での時間経過による尿沈渣成分の保存状態について報告する。また、デジタル教材を用いた実習の教育効果についても報告する予定である。

1) 保健科学部医療検査学科